


2018年度第3四半期 決算説明資料



2019年2月7日

M MITSUI E&S

三井E&Sホールディングス

<p>183Q 決算概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 3,743 億円 (前年同期比 ↓) ◆ 売上高 4,794 億円 (前年同期比 ↓) ◆ 経常利益 ▲220 億円 (前年同期比 ↓)
<p>2018年度 見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 7,500 億円 (前回比 -) ◆ 売上高 6,600 億円 (前回比 →) ◆ 経常利益 ▲200 億円 (前回比 →)
<p>エンジニアリング部門の 損失について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 損失対象工事については、工事の完遂に向け鋭意遂行中 ◆ グループ会社全体の事業再編を不採算事業の撤退や事業売却も視野に入れ検討中 <p style="text-align: center;">  具体的な施策や体制などの全体像を2019年5月に開示予定 </p>
<p>トピックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内初の一般海域における洋上ウインドファーム事業開始 ◆ 防衛省向け3,900トン型護衛艦1隻を三菱重工業から受注 ◆ 遠隔・自動運転開発用トランスレーナ®およびテストエリア完成

(単位：億円)

	17年度3Q	18年度3Q	増減
受注高	4,022	3,743	▲279
売上高	5,199	4,794	▲405
営業利益	▲16	▲271	▲255
(営業利益率)	(▲0.3%)	(▲5.6%)	(▲5.3)
経常利益	40	▲220	▲260
(経常利益率)	(0.8%)	(▲4.5%)	(▲5.3)
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲36	▲473	▲437

<期中平均為替レート>

USDドル	112.41円/US\$	113.00円/US\$
-------	--------------	--------------

2018年第3四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益			経常利益
	173Q	183Q	増減	173Q	183Q	増減	173Q	183Q	増減	183Q (※参考値)
船舶	541	832	+291	864	695	▲169	▲62	▲66	▲4	▲68
海洋 開発	1,014	660	▲354	1,469	1,671	+202	95	119	+24	176
機械	1,196	1,226	+30	1,302	1,358	+56	90	75	▲15	80
エンジニア リング	664	497	▲167	916	498	▲418	▲154	▲408	▲254	▲410
その他	607	528	▲79	649	571	▲78	15	10	▲5	2
合計	4,022	3,743	▲279	5,199	4,794	▲405	▲16	▲271	▲255	▲220

(※参考値) セグメント別経常利益につきましては、当社参考数値であり監査を受けたものではありません。

■ インドネシア石炭火力発電所土木建築工事の状況

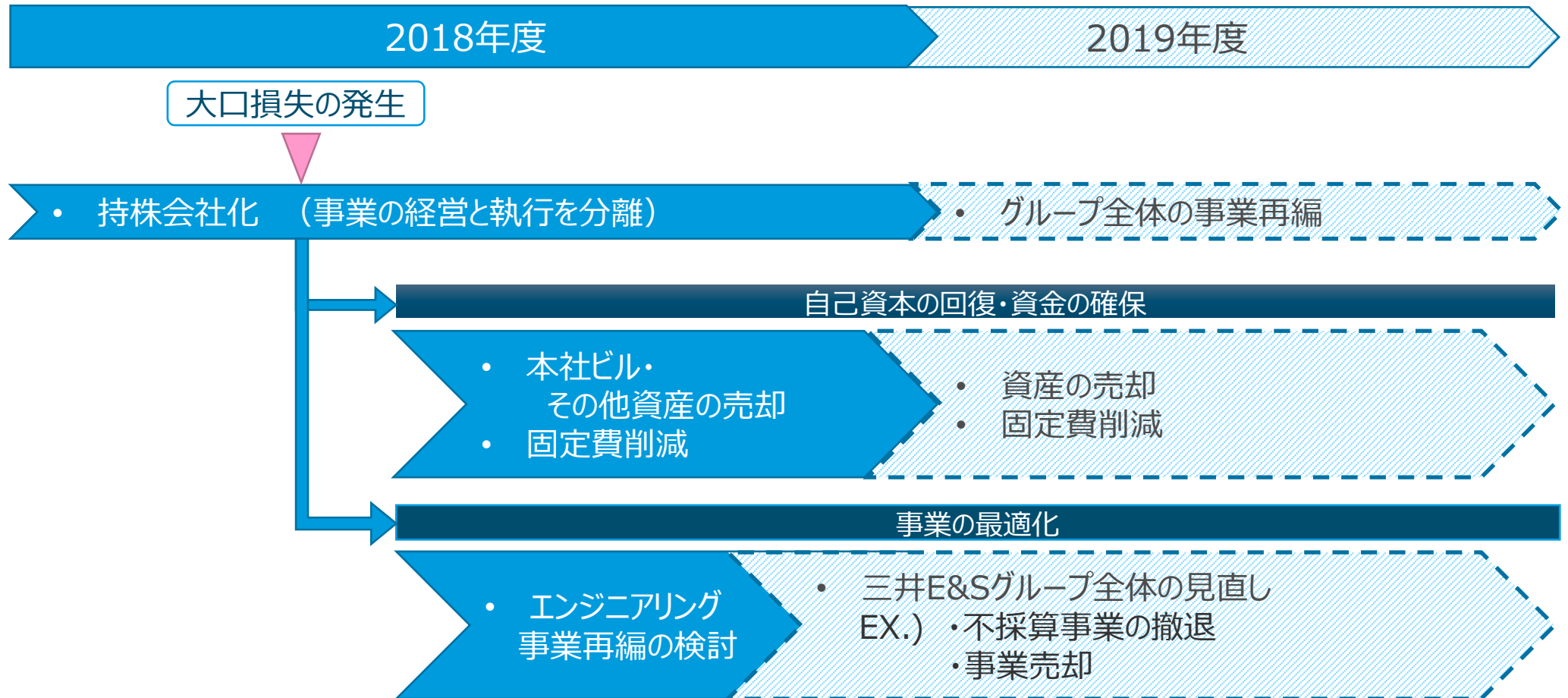
<工事進捗状況>

- CW管について、当初据え付けたGRP管は撤去完了し、現在材質を変更し鋼製管で製作中。
雨季終了後の2019年3月以降に埋設工事開始予定
- 工程遅れについては引当済みの工事費用で挽回中
- 雨季の集中豪雨により一部浸水（フォース・マジュールを宣言）

■ 大型石炭火力発電所土木建築工事の状況

プロジェクト	地域	進捗率 (182Q⇒183Q)	引き渡し時期 (182Qより変更なし)
A	ベトナム	約95%⇒約97%	2019年度
B	インドネシア	約40%⇒約47%	2020年度
C	インドネシア	約45%⇒約56%	2021年度

- A 工事は順調に進捗、既に最終段階に入っており、来年度上期には完成予定
- B 工事の完遂に向け鋭意遂行中。現段階で見積もれる費用は183Qまでに引当金を計上済み
- C 工事は予定通り順調に進捗



✓ 2019年度以降の具体的な施策や体制などの全体像を2019年5月に開示予定

(単位：億円)

	前回見通し (2018/11/8)	今回見通し (18年度)	増減
受注高	7,000~ 9,000	7,500	—
売上高	6,600	6,600	0
営業利益	▲280	▲280	0
経常利益	▲200	▲200	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲430	▲430	0

※ 前提為替レート US\$ = 110円

※ US\$ 1円の変動が営業利益に与える影響⇒約2億円

2018年度 セグメント別通期見通し

(単位：億円)

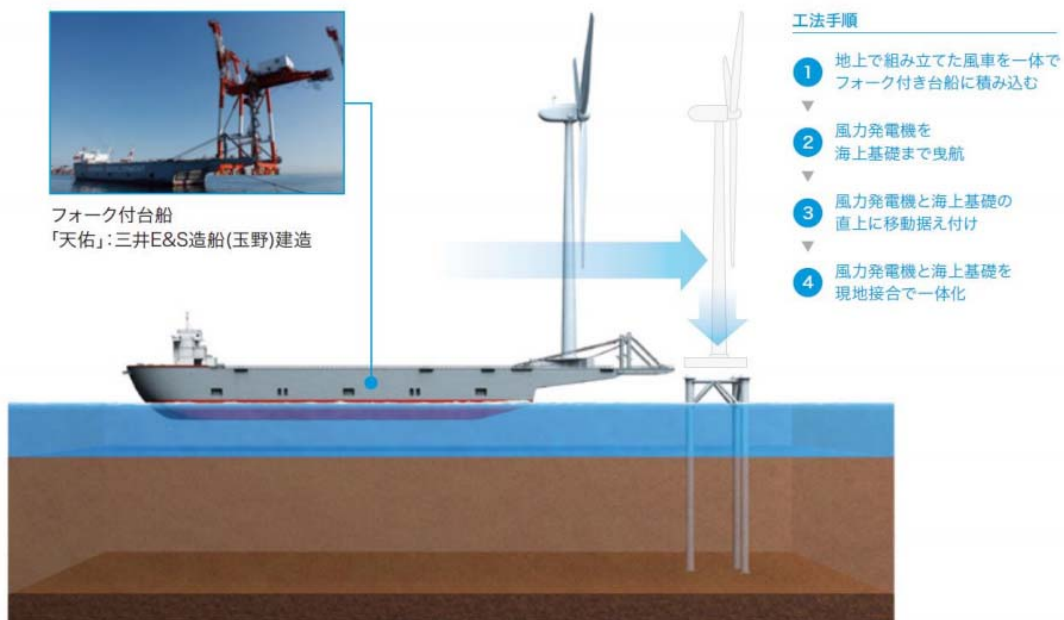
	受注高			売上高			営業利益		
	前回見通し (2018/11/8)	今回見通し (通期)	増減	前回見通し (2018/11/8)	今回見通し (通期)	増減	前回見通し (2018/11/8)	今回見通し (通期)	増減
船舶	1,100	1,100	0	900	900	0	▲80	▲90	▲10
海洋 開発	2,000~ 4,000	2,500	—	2,200	2,200	0	120	150	+30
機械	1,700	1,700	0	1,800	1,800	0	70	80	+10
エンジニア リング	1,200	1,200	0	800	800	0	▲430	▲430	0
その他	1,000	1,000	0	900	900	0	40	10	▲30
合計	7,000~ 9,000	7,500	—	6,600	6,600	0	▲280	▲280	0

国内初の一般海域における洋上ウインドファーム事業開始

三井E&Sエンジニアリングと株式会社ウェンティ・ジャパンは、富山県下新川郡入善町（町長：笹島 春人）で進めて参りました入善町洋上風力発電事業計画を推進することと致しました。

国内初の取り組みとして民間資金 100%での洋上風力発電所を建設、運営いたします。北都銀行を主体とし、地元金融機関の協力を得てプロジェクトファイナンス方式を採用します。本計画は、富山県下新川郡入善町沖に2,000kW級風車を4基設置するもので、発電した電力は全量「再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）」を活用して北陸電力株式会社に売電する計画です。

三井E&S造船が建造したフォーク式台船を活用し洋上での作業を極力短期間にし、漁業への影響を抑え、工期の短縮化を目指しています。

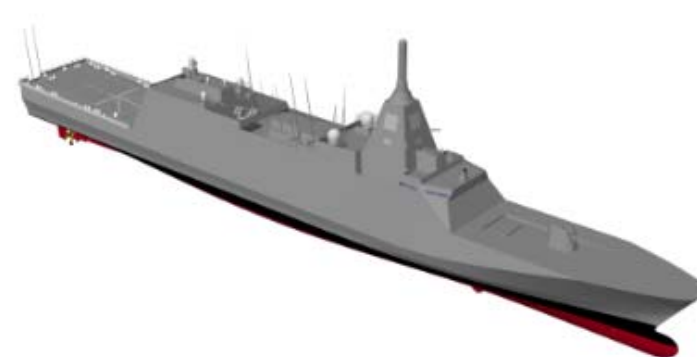


イメージ

防衛省向け3,900トン型護衛艦（新艦艇）1隻の建造契約を三菱重工業と締結

三井E&S造船は、三菱重工から、3,900トン型護衛艦、いわゆる「新艦艇」1隻を受注しました。周辺海域の防衛や海上交通の安全確保および国際平和協力活動などを機動的に行えるように多様な任務への対応能力の向上とコンパクト化をコンセプトとしており、対機雷戦機能なども備えるものです。

海上自衛隊向けの艦艇建造において、主事業者の設計図面に基づき主事業者の造船所と下請負者の造船所で同時期に建造するのは、今回が初めての取り組みとなります。三菱重工とは、共同で詳細設計作業を進めることとしており、今後は両社がプロジェクト体制で協力していくことで合意しています。なお、両社はこれを機会に広く周辺分野ならびに将来案件について個別に協業を検討していくこととしています。



3,900トン型護衛艦のイメージ図



開発用トランスレーナ及びテストエリア



遠隔運転操作

遠隔・自動運転開発用トランスレーナ®およびテストエリア完成

株式会社三井E&Sマシナリーは、自社設備として大分工場内にトランスレーナ®※（コンテナ荷役用クレーン）1機と全長100mの走行用テストエリアを整備しました。国内外でのニーズの高まりが予想されるトランスレーナ®の遠隔・自動化機能の開発およびトランスレーナ®本体の性能向上のテスト機として運用します。

並行して進めている自動化ターミナル設備の運用・管理を行うシステム等のソフトウェア製品を連携し、自動化コンテナターミナルを構成する全ての要素に一括して対応出来るトータルソリューションパッケージ製品群を構築し、国内外に拡販していきます。

※ トランスレーナ®は米国パセココープの登録商標です。

参考) 2018年度第3四半期 損益計算書の概要

(単位：億円)

	17年度3Q	18年度3Q	増減	
売上高	5,199	4,794	▲405	
売上総利益	375	120	▲255	石炭火力発電所土木建築工事の採算悪化
販売費及び一般管理費	391	391	0	
営業利益	▲16	▲271	▲255	
営業外収益	103	101	▲2	
営業外費用	46	50	+4	
経常利益	40	▲220	▲260	
特別利益	64	10	▲54	前年は投資有価証券売却益、固定資産処分益を計上
特別損失	4	17	+13	
税金等調整前 四半期純利益	101	▲227	▲328	
法人税等	94	199	+105	繰延税金資産の取り崩しに伴い法人税等調整額が増加
非支配株主利益	43	47	+4	主にMODEC少数株主持分
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲36	▲473	▲437	石炭火力発電所土木建築工事の採算悪化 及びこれに伴う繰延税金資産の取り崩しにより過去最低

参考) 2018年度第3四半期 貸借対照表の概要

(単位：億円)

	17年度末	18年度3Q	増減	
資産合計	10,292	10,358	+66	
(現金預金)	937	1,036	+99	
(売上債権)	2,438	2,413	▲25	
(有形・無形固定資産)	3,823	3,829	+6	
(繰延税金資産)	181	51	▲130	今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産を取り崩し
負債合計	6,724	7,246	+522	
(前受金)	569	816	+247	
(受注工事損失引当金)	103	332	+229	石炭火力発電所土木建築工事の採算悪化に伴う増加
(有利子負債)	2,553	2,737	+184	
純資産合計	3,568	3,113	▲455	石炭火力発電所土木建築工事の損失を受け大幅に減少
(自己資本)	2,392	1,916	▲476	

自己資本比率	23.2%	18.5%	▲4.7	
D/Eレシオ	1.1倍	1.4倍	+0.3	

2018年度3Q 新造船受注内訳 (三井E&S造船) (隻)

	受注 (累計)	引渡 (累計)	受注残
一般商船	9	7	22
艦船・官公庁船	2	-	8
合計	11	7	30

船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

	2017年度3Q累計		2018年度3Q累計	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注	27	52	60	110
売上	106	280	121	311
受注残	60	187	72	151
生産実績	112	288	118	297



MITSUMI E&S

社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます

To continue working as a company trusted by society and individual through products and services we offer

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。